

1

パネルディスカッション

就職活動体験談

コロナ禍の就職活動を乗り越えた4人の学生が就職活動の実際を語る。ライブ配信中に届いた視聴者からの質問にも回答いただいた。

司会



キャリア形成支援課長補佐

遠藤 清

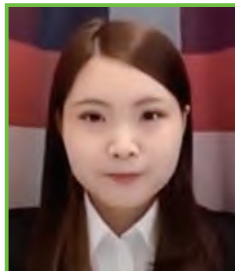
パネリスト



法学部法律学科

渡邊 匠

地方公務員に内定。憲法のゼミに所属。アルバイトは個別指導塾で講師を務める。



経営学部経営学科4年

本間彩楓

新潟県出身。メーカー企業の事務系総合職に内定。学際領域をテーマにしたゼミに所属。飲食店員とツアーガイドのアルバイト。



商学部マーケティング学科4年

永野由結

専門商社の一般職に内定。金融サービス産業を学ぶゼミに所属。映画館でアルバイト。サークルはイベントサークルにて実行委員。



文学部日本文学文化学科4年

又吉祐仁

沖縄県出身。証券会社総合職に内定。日本の伝統文化を研究するゼミに所属。飲食店でアルバイト。野球の社会人チームに所属。

就職活動に向けた準備

遠藤：就職活動では事前の準備が大切と言われます。自己分析、業界研究、企業研究、中にはインターンシップにたくさん参加する学生もいま

す。パネリストの皆さんは、1年前、就職活動に向けてどのような準備をしていたかお話しいただけますか。

渡邊：私は公務員の準備を大学2年次から始めました。2年次の初めのガイダンスでエクステン

ジョンセンターの公務員試験対策講座を知り、公務員も職業の選択肢の一つとして対策をしてきました。公務員に向けて1年次から勉強している人もいる中、2年次からのスタートでしたが、自分のペースで準備を進めました。

本間：私は3年次の夏に過去を振り返る自己分析を行い、10月から筆記試験対策として問題集を1冊解き、その後は苦手分野を勉強しました。3年生の6月頃からインターンシップに参加し、それと並行して企業研究、業界研究をしました。インターンシップは2月頃までの間に20社くらい参加しました。

又吉：私は自己分析を始めたのが3年生の1月頃に結構遅かったのですが、筆記試験も同じ頃に始めました。インターンシップは8月頃から始めて5社参加しました。

遠藤：渡邊さんにお伺いします。公務員を目指す学生は、1年次から公務員試験講座を受ける方が多い中、2年次からのスタートで大変だったと思います。1日どのくらいの勉強時間でしたか。

渡邊：4時間から5時間くらいで、休日は6時間くらいやっていたと思います。基本的に大学の授業と予習復習、アルバイトの時間以外は公務員試験の勉強をしていました。

遠藤：又吉さんは3年次の1月頃から就職活動の準備を始めたとのこと。キャリア形成支援課としては3年次の秋くらいから少しずつ準備を進めるようお伝えしていますが、早くからやっておけばよかったと思いませんか。

又吉：自己分析と筆記試験対策は早ければ早いだけいいと思いました。スケジュール的にハードでした。

遠藤：本間さんは、20社ものインターンに参加しましたが、どういった基準で参加先を選びましたか。

本間：実際に参加しないとわからないこともあるので、インターンシップにおいては特に業界を問わず、少しでも知りたいと思った業界には参加するようにしていました。あえて基準を言えば、英語を使った仕事に興味があったので、海外展開をしている企業などに注目して参加しました。

準備期間のコロナの影響

遠藤：準備期間において新型コロナの影響はどのようなものがあったでしょうか。

渡邊：3、4月は大学に来ることができなかったので、同じ公務員試験講座を受講している学生がどのくらい勉強が進んでいるのかわからず、一人で家にこもって勉強する状況が2、3カ月続き、勉強の進捗や質が、これで大丈夫かなという心配がありました。

永野：私は2月くらいから、キャリア形成支援課の方にエントリーシートの添削をしていただいていたのですが、それがコロナのため4月からできなくなってしまって不安を感じました。それまでのアドバイスを振り返ったり、電話で聞いたりして、もう一度自分で書き直すなどして頑張っていました。

本間：コロナの影響で3月くらいから、志望企業が採用中止ということがありました。また対面だった面接が急にオンラインに変わったりするケースもありました。でもオンラインになっても対面と特に違うことはないと思います。説明会はオンライン化で、移動時間がなくなったので、多くの説明会に参加でき、いろいろな企業を知る機会になりました。



した。

遠藤：面接は3月以前からありましたか。

本間：はい。

遠藤：インターンシップに参加した企業の早期選考ですか。

本間：私は多くのインターンシップに参加していましたが、早期選考だと12月頃には始まる企業がありました。3月までに面接は5社以上経験していました。

Uターン就職という選択

遠藤：本間さんはUターン就職を選びました。いきさつをお伺いできますか。

本間：私はUターン就職に関して2年次の秋くらいから考え始めました。学内で新潟県の就職情報を紹介してくれる機会があり、新潟にもよい企業がたくさんあることを知ったのがきっかけです。東京でもやりたいことがあったので、東京と新潟でどちらか一本に絞らずに、就職活動をしました。親に地元での就職を勧められたわけではありませんが、情報を集めていく中で、どんどん興味が湧いてきました。

遠藤：東京と新潟それぞれで就職活動をされたということですが、交通費、スケジュール面はいかがでしょう。早い時期から就職活動されていたそうなので、今のようにオンラインになる前も活動して、大変だったこと、工夫したことはありますか。

本間：面接やインターンシップの日程が重なるなど、スケジュール管理は大変だったのですが、新潟の企業でもインターンシップや面接を東京の会場で実施するケースがありますので、東京にしながら新潟の企業の面接を受けることもできました。新潟県は就活生向けに交通費の補助を行っていたので、それも利用し、1回の帰省でいくつかの予定をこなせるようにスケジュールしました。

遠藤：交通費の補助については、他の県や市でも行っているところがあります。LO活（Local+就活）のサイトでも情報が見られますので、視聴者の方もチェックしてみてください。また、専修大学は30を超す地方自治体と就職支援協定を結んでおり、Uターン就職に関する個別相談なども行っていますので、ぜひ積極的に活用していた

できればと思います。

就活本番いよいよスタート

遠藤：就職活動が始まってからのお話をお伺いします。3月1日に採用活動が解禁となりますが、就職サイトで何社くらいにエントリーして、そのうち何社選考に進んだのでしょうか。

又吉：私は20社くらいオンラインの説明会に参加しました。その中でエントリーしたのが10社くらい、エントリーシートを提出したのも10社、選考に進んだのが7社、面接に進んだのが5社、内定をいただいたのが2社です。2社目に内定をいただいた会社が第一志望だったので、そこで就職活動を終わりました。

本間：私は説明会の参加企業数は、対面とオンライン合わせて30社以上です。エントリーも30社以上にしており、実際に書類を提出した企業は10社程度でした。その中で面接に進んだのが6社で、内定は2社です。面接のピークは3月で、最初に内定をもらったのは4月です。

永野：私は説明会が72社、エントリーした企業がプレエントリーを含めて50社、書類提出が25社、面接が12社、内定が3社です。面接のピークが5月です。最初に内定をいただいたのは、インターンシップの早期選考で11月でした。そのほかは6月です。

遠藤：内定が11月とは、企業の採用選考が年々早くなっている印象がありますね。渡邊さんは、公務員試験はいくつ受けましたか。

渡邊：東京特別区と、内定をいただいた地方公務員の2つになります。

遠藤：公務員を目指す人の中では少ない方だと思うのですが、不安はなかったですか。

渡邊：不安がないと言えば嘘になりますが、学生時代にやってきたことがきちんとありましたので、それを正當に評価していただければ問題ないと思っていました。やることを絞って、そこに特化した準備をしていたので、無事合格をいただけました。

コロナの影響、オンライン化

遠藤：コロナの影響は、どのような点に感じまし



遠藤さん



渡邊さん



永野さん



又吉さん

たか。

又吉：すべての面接がオンラインで行われた企業がありました。

本間：オンライン面接では自宅の無線 LAN が不安定で面接に集中できないときもあったので、有線 LAN を買って、万全の状態です。面接に挑めるように環境を整えました。

永野：選考に限ればオンラインは交通費がかからないのでやりやすかったです。でも、大学に来ることもなくなり、周りの学生の状況がわからなかったです。

遠藤：渡邊さんは、公務員試験でオンライン面接はありましたか。

渡邊：私が受けたところではありませんでした。

遠藤：では本間さん以外で、オンライン面接の途中で回線が切れたことがある方はいますか。

又吉：途中で切れたことがあり、その時は電話に切り替え、面接を続けました。

永野：回線は大丈夫でしたが、オンライン面接では時間を意識しました。夜遅い時間の面接だと、顔の印象が暗く映りやすいことを考えて、一番自分がよく見える時間帯とメイクを研究しました (笑)。

女性の働き方

遠藤：本間さんと永野さんは、企業選びの際、女性ならではの視点でチェックしたことがあれば教えていただけますか。

本間：将来を考えて、育休取得率と育休後にどれだけ職場に復帰しているか職場復帰率を気にしました。私が受けた企業は女性の割合が少なかったため、女性に対する制度がどれだけ手厚いかを見ました。

遠藤：どのように調べましたか。

本間：ホームページに載せている企業もありますが、職場復帰率、女性の管理職の割合は掲載さ

れていないことも多いので、直接社員の方に聞くようにしていました。

永野：私も福利厚生と育休の取得率はかなり気にしていました。それと同時に自分が 10 年後どうありたいのかということも考えました。手に職をつけられるような仕事内容か、キャリアを見据えた環境を提供してくれる会社なのかを確認しました。結果的には、一般職でありながら「あなたの仕事はここまで」といった枠にはまらない働き方のできる企業に決めました。一般職でも営業で働きたくなったときはキャリア転換ができるかなど、OB 訪問で確認しました。

遠藤：企業説明会以外で、社員の方にお会いして話を聞いたという方はいらっしゃいますか。

全員：(挙手)

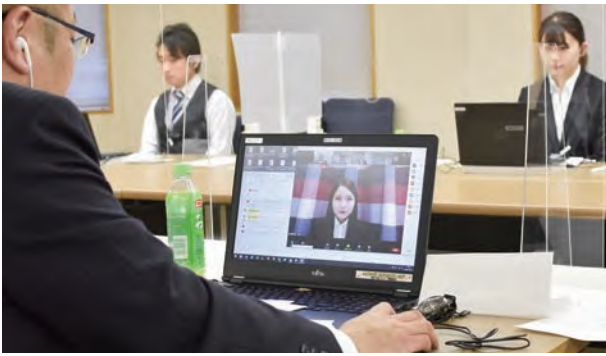
渡邊：同級生が高校卒業後に公務員として働いていたので、彼から、説明会で聞けないようなほんとの話、ネガティブなところも聞いたのは良かったと思います。そういった課題や問題は、自分が公務員になったとき、解決していけたらと思いました。

オンラインVS対面、どっちがいい？

遠藤：ここでチャットで届いた質問があります。オンライン面接、オンライン説明会について対面と違うと感じた点はありますか。

本間：オンラインなので、緊張しすぎずに面接に臨めました。逆に、長時間のグループ面接では、他の人が話しているときに、気が抜けちゃうときもありました (笑)。

永野：内定をいただいた企業は最終面接だけ対面になりましたが、実際に行ってみないと、会社の雰囲気などわからない面もあるので、実際に会う方が私は好きでした。



本間さんは自宅より、リモート参加

遠藤：オンライン面接だと、カンペをパソコン画面の脇に置く人もいるという話を聞きますがどうですか。

永野：置いてました（笑）。

遠藤：人事の人は目線でわかるといますが、カンペを使った面接はうまく行きましたか。

永野：自信がないからそうするので、落ちてしまうことが多かったですね。

オンライン面接ならではの 家族のサポート

遠藤：さらに質問が届いています。オンライン就活でどんなサポートが嬉しかったですか。

又吉：オンライン就活に向けて親に新しいパソコンを買ってもらいました。持っていたパソコンの動作が不安定だったので、就活が始まる時に親から援助をしてもらいました。環境を整えてもらえたのはありがたかったです。

永野：私は自宅でオンライン面接をすることが多かったのですが、インターホンなど物音がすると飼い犬が吠えてしまうのがすごく心配で、親が面接の30分くらいの間は散歩に連れ出してくれました。その時はインターホンに、「今の時間は押さないでください」とメモ書きしておいてくれたので助かりました。

公務員試験、面接の準備は？

遠藤：ここで視聴者から渡邊さんへの質問です。面接などの準備で、自治体のどのようなところを調べましたか。

渡邊：自治体のホームページに、年間計画書や長期計画書が載っているので目を通しました。自

治体ごとに地理的なものや産業などの特色があるので、自分のやりたいことと自治体が行っていることがマッチしているかを見ていくと、自然と自治体研究につながっていくと思います。

親に相談したorしない

遠藤：視聴者からの質問です。就活中に保護者に相談したことはありましたか。

本間：私はUターン就職も考えていたので、地元企業については親に頻繁に相談していました。地元の企業情報は親から教えてもらうことも多かったです。

永野：インターンシップに参加した際、親にどう思われているか、ということについて書く課題がありました。自分のルーツを知る意味でも、親からどういう子供だったかを聞きました。

就活を通しての成長

遠藤：就職活動を振り返って、こんなところが成長できたという点をお話してください。

渡邊：いろんな人の意見を聞いて、自分はどんな人間かを見つめ直し、視野が広がったと思います。

本間：物事を客観的に見る力がついたと思います。自分を客観的に見ることができ、将来についても具体的に深く考えることができました。

永野：自己分析などを通して、自分の嫌な部分に向き合ったりしました。それまでは変化を恐れることも多かったのですが、今はこれからのために、自分はどうしたらいいか考えられるようになりました。

又吉：気遣いの部分が成長したと思います。オンライン面接では企業側に対し、始めに「音声が届いてますか」と声をかけるなど気遣いができるようになったのが、成長した部分だと思います。

遠藤：では、お時間になりましたので、これをもってパネルディスカッションを終了したいと思います。就職活動におけるコロナの影響は今後も続いていくと思います。キャリア形成支援課では就職活動の様々なサポートを行っていますので、学生の皆さんには積極的に活用いただければと思います。ありがとうございました。